（３）ライフサイクルコストの低減
Ⅲ③環境と調和した施設への転換

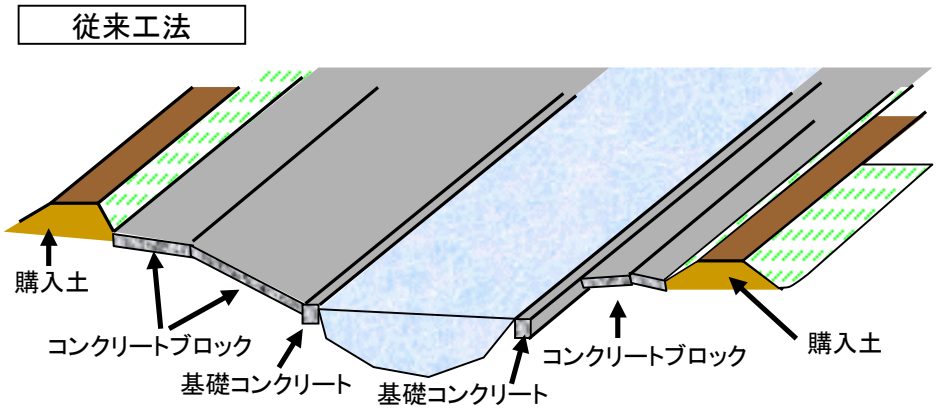
# 多自然型護岸の整備

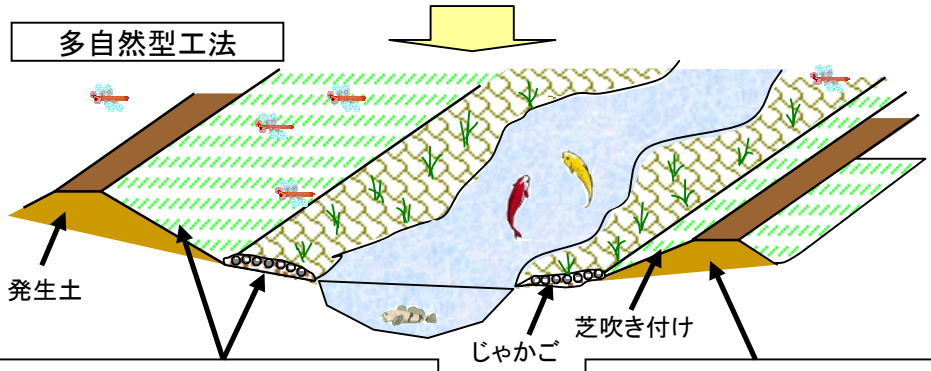
【施策の概要】
　法面はコンクリートから野芝吹き付けへ、低水路はじゃかごにより植生を図ります。また、発生土をリサイクルし、盛土材として活用します。多自然型護岸により、従来の工事コストを低減するとともに、緑の創出やコンクリート使用量の低減など環境にやさしい川づくりを進めます。

【施策の実施状況】
　河川管理施設について、コンクリートに変わる工法、緑化ができる工法により整備

| | 平成11年度 | 平成12年度 |
|---|---|---|
| ○柳枝工、木工沈床、その他の伝統工法の実施 | 44箇所 | 28箇所 |
| ○多自然型ブロックの採用 | 86箇所 | 68箇所 |
| ○間伐材の利用 | 48箇所 | 45箇所 |
| ○ビオトープの整備 | 60箇所 | 37箇所 |
| ○親水性護岸整備 | 71箇所 | 62箇所 |

【施策のイメージ図】




①芝吹き付け・じゃかご（工事コストの低減）
　コンクリートブロックから法面を芝吹き付けに、低水敷をじゃかごにすることで植生を図るとともに工事コストを低減

②発生土の活用
（工事コスト･社会的コストの低減）
堤防の盛土材に発生土をリサイクル使用し、工事コスト･社会的コストを低減

③豊かな水辺環境の創出（環境調和型への転換による環境に係るコストの低減）
　多自然型護岸により、人や動植物にやさしい水辺環境を創出